

中学生のための鑑賞ガイド 2026

没後10年 横須賀美術館コレクションによる

島田章三展

島田章三は1933年に現在の横須賀市大津町に生まれ、現在の大津小学校から馬堀中学校、県立横須賀高校で学びました。中学の頃から絵を描くことに熱中し、東京藝術大学に入学、在学中の24歳の時《ノイローゼ》(1957年)を発表して画家としてデビューしました。それから約60年間、日本を代表する洋画家として、2016年に83歳で亡くなるまで多くの作品を制作しました。



島田章三《ミナトヨコスカ》2007年 当館蔵 「没後10年 横須賀美術館コレクションによる島田章三展」出品作

横須賀美術館が所蔵する
島田章三作品全点

約**130**点

をはじめて展示！

美術館が開館した2007年、
74歳の時に描いた作品

私が生まれた浦賀町*はペリーが上陸したところで、世界に門戸を開いた町ということで、子供心に居心地は悪くなかった。むしろ、気に入っていた。

※ 神奈川県三浦郡浦賀町大津
(現在の横須賀市大津町)に生まれた。

美術館でのルール

食べない・飲まない — 展示室ではアメやガムも ×
メモはえんぴつで
話す時は小さな声で — 他の人の迷惑にならないように
さわらない — 作品や展示物にはさわらないように
走らない — 作品や他の人にぶつからないように

注意 バインダー、えんぴつは持参してください
(受付での貸出はありません。)

中学生のための美術鑑賞教室 2026 島田章三展

学芸員の話聞きながら島田章三展を鑑賞します

日時 9月26日(土)、9月27日(日)、10月24日(土)
13:30～
対象 中学生(同行の保護者も参加可能)
料金 無料(企画展観覧券が必要です。中学生は受付で
無料券を受け取ってください)
場所 美術館2階情報スペース

申し込みは不要です。当日集合場所(2階情報スペース)
にお集まりください

いま見ることができる展覧会

- 没後10年 横須賀美術館コレクション
による島田章三展
- 所蔵品展 特集：丸山純子 呼吸する庭
- 谷内六郎展 月のひかり、星のきらめき
『週刊新潮』表紙絵と絵本『びんのそら』より

中学生以下無料

休館日 9/7(月)、10/5(月)、11/2(月)

横須賀美術館 YOKOSUKA
MUSEUM OF ART

横須賀美術館が現在所蔵している島田章三作品は、
油彩42点、水彩素描66点、版画21点、計129点です。
島田さんの経歴と言葉とともに作品を見ていきましょう。

■ 油彩

現在の横須賀市大津町に
生まれる。

現在の大津小学校、馬堀
中学校から県立横須賀高
校に入学。

21 歳
東京藝術大学に
入学。

33 歳
新設の愛知県立芸術
大学の常勤講師となる。
愛知県に転居。



《オダリスク》1968 年

34 歳
《母と子のスペース》(東京国立近代美術館蔵)で、
「画壇の芥川賞」とも言われた安井賞を受賞。

1933

1954

1957

1966

1967

1968~1969

24 歳
大学4年生の時に、
国画会展に初出品し
て国画賞を受賞。



《ノイローゼ》1957 年

35 歳~36 歳
ヨーロッパへ。



《パリの虹》1968 年 水彩、パステル・紙

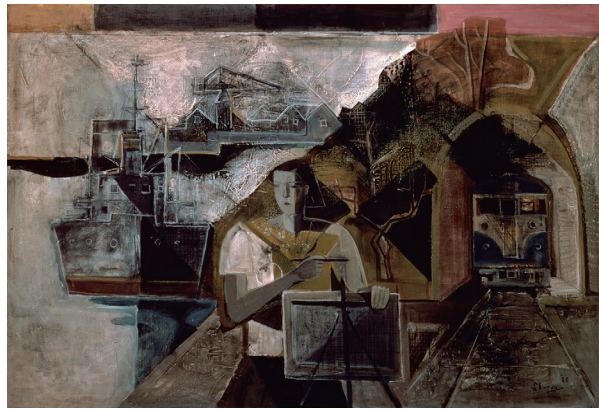


ちょうどヨーロッパに行った頃、僕はモチーフに迷っていて、神話に題材を求めた《オダリスク》や《はこぶね》などという作品を描いていたのです。ところが、ヨーロッパへ行ってみると、ピカソでもブラックでもレジェでも、椅子やグラスといった非常に身近なところで自分の個性を出してやっているんですね。そういうのを見て、身の回りにあるものでも何か自分のできるんじゃないかと思ったのです。



《自画像》1978年 インク・紙 ★

45歳



《横須賀》1988年

故郷をイメージした。横須賀へ帰るときトンネルをいくつも通る。この絵では画面上部に水平線があるが、自分の原点に横須賀の海の水平線がある。絵描きにとっては一本の線から切り開いて行く一番大事な原点となる。横須賀の海は自分の原風景だ。

50代半ば
横須賀を描き始める。



島田さんが使っていた
イーゼルとパレット

83歳で死去。

1973

1980年代後半～

2000～2009

2016

40歳

空間の中の人のかたち、日常の中の人のかたち、「かたちびと」を描いていきたいという意識は、ちょうどこの作品*を描いた頃から出てきた。

*《愛鳥の日》1973年

僕は「かたちびと」ということで、人を形として確定していくことを志向しています。そこでは人物を表面的に描写してもだめなのです。それでは肖像画に過ぎませんから。その肖像を「かたちびと」に移行するには、構築的に人体を扱って画面に定着させるという画家のはっきりした考え方が必要なんです。表現ということは、形になるものから形をつくるのではなくて、形にならないものから形をつくるものだと思っています。

67歳～76歳

日本芸術院会員(1999年)、愛知県立芸術大学学長(2001年～2006年)、文化功労者(2004年)、愛知芸術文化センター総長(2007年～2010年)、横須賀美術館館長(2007年～2011年)をつとめた。

おお げ き

大袈裟に言えば私の生涯で最も激動の10年でもあった。



《らせん階段》2015年

このらせん階段は
どこにあるかな？

作品について詳しく知ろう！ キャプションの読み方

展示作品の横にあるパネルを「キャプション」といいます。

「キャプション」からは、この作品が「だれが」「いつ」「どんな絵の具で描いているか」など、作品の情報を読み取ることができます。

島田章三

1933-2016

横須賀

1988 (昭和63) 年
油彩・画布

SHIMADA Shozo
Yokosuka
1988 Oil on canvas

作家寄贈

① 作家名 生まれた年-亡くなった年

② 作品名

③ 制作年

④ 技法・材質等(※)

⑤ 作家名(英)

⑥ 作品名(英)

⑦ 制作年 技法・材質等(英)

※技法は、何で描いているかで、油彩は、油絵具を示します。
また、材質は、キャンバスや紙など何に描かれているかを示しています。

水彩 素描

僕はデッサンを比較的タブローと同じように解釈している。計画的にテーマを考えてデッサンをたくさんかいて下絵をつくり、その下絵にもとづいて本画をかいてゆくシステムは、余り好きではない。描いてしまったら、はずみがついて加速しながら坂道をころがりおちるといった、かきながら調子をあげてゆくデッサンが僕は好きだ。

🔍 デッサン（下絵）と完成作を見比べてみよう

デッサン（下絵）



《巣立ち》水彩、油彩・紙 1964年

完成作



《巣立ち》油彩・合板 1964年

版画

いわゆる版画家の版画は技術的に版をつくるのが実にうまいのだ。僕はどう逆立ちしてもこんなにうまく版をつくれない。そうなると絵で勝負しようと思うのだ。それにはごく単純な版で効果が出る方が面白い。というわけで、ドライポイントやリノリウムカットが手とりばやいのだ。

僕は、デッサンがかいているうちに熱くなって坂道をころげおちるような気のいったデッサンが好きだと先に書いたが、版画や陶器はこれと正反対で、イメージが出て来たらなるべく早く、版や粘土に定着させて結果を出さないと、大切なエキスが逃げてしまうのではないかとアセッてしまうのだ。だから版画は一本の線で形を決めたり、最少限度の色数や調子で造形してゆく場合が多い。

🖋 版画の技法について調べてみよう

エッチング、アクアチント



《採果》1972年

リノカット



《猫と少女》1972年

ドライポイント



《灯台》1975年

リトグラフ



《湘南のひと》1995年